

本学学生と保護者の皆様へ 新型コロナウイルス感染症に関する学長メッセージーその30

本学学生の皆さん、保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

前回のメッセージ29を9月22日にお届けしてから3か月の間に、わが国ではオミクロン株 BA.5 による感染第7波が収束する間もなく、10月下旬からはBA.5の再燃とオミクロン株の下位変異株による第8波に入っています。若年層は感染しても軽症～無症候で、重症化することなく経過し、致死率も季節性インフルエンザ以下ですが、基礎疾患を持つハイリスク高齢者には依然として厄介な感染症であり、死者の大半は高齢者が占めています。

最近までゼロコロナ政策を維持してきた中国も、国内の反発からウィズコロナに転換しました。わが国も含めて、世界は社会経済活動の活性化を重視し、行動規制は実施されていません。わが国も第7波の最中でしたが、3年振りに「行動制限のない」夏休みを過ごし、この年末年始も行動制限は行わない方針とされています。

新潟県内での感染拡大に伴い、本学内でも連日新規陽性者が確認されています。このため、12月20日に第51回の危機管理対策委員会を開催し、12月23日から2月23日までの2か月間の方針を決定しましたので、その内容を説明します。

1) 感染の現状について

わが国の新型コロナウイルス感染症の第7波は西高東低の分布でしたが、第8波は北海道、東北から始まり、次第に全国に拡大しています。12月21日時点の国内新規感染者は206,943人、死者は296人です。新潟県の新規感染者数は3,383人で、直近1週間の人口10万人あたりの感染者数は901.98人で全国第21位、確保病床の使用率は65%です。

若年層の大半は軽症、ないし無症状のため、政府はPCR検査陽性でも自宅待機の期間の短縮を図り、有症者は7日間、無症状者は5日間になりました。マスクも不要で、サッカーワールドカップの会場のように、「世界ではどこもマスクなどしていない」というような議論で、国の方針が決まりそうです。しかし、マスクの装着が感染防止に有効であることは科学的に証明されています。

「行動制限のない夏休み」でも、本来は移動中での行動に何の制限もなくなったわけではありませんでした。政府の方針として示された「移動の制限なし」には、各自が感染防御対策を徹底して行動することが組み合わされていたのです。しかし、次第に「行動制限なし」ばかりが強調されるようになりました。移動すること自体は感染防御対策を採っていれば、それほどハイリスクではありませんが、ほぼ無症状の感染者と会食等の接触をすることから、感染は拡大していくのです。

国は11月に新レベル分類（レベル1（感染小康期：感染者がいても安定して医療対応）、レベル2（感染拡大期：感染者増加傾向、病床増で適切に対応）、レベル3（医療負荷増大期：一般医療の相当な制限）、レベル4（医療機能不全期：一般医療を大きく制限してもコ

ロナ医療対応できず))を公表し、現在は感染拡大初期(レベル2)としています。

また新潟県は、基本的には国の基準に則り、主な指標として確保病床の使用率を用いるとして、現状をレベル2と評価し、レベル3に進行しないために、基本的な感染防止対策の徹底、オミクロン株対応ワクチンの接種(特に高齢者と小児に)、高齢者に接する場合に感染リスクの高い行動を取らないこと、を求めています。

2) 本学の新方針について

本学における「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限レベル表」は、原則として「レベル1(注意)」でしたが、今回もこの方針を維持します。繰り返しますが、感染第8波の最中であっても「行動制限は行わない」という方針は、各自が感染防御対策を徹底していることが前提です。「自由に行動してよい」ということではありませんので、感染リスクを高めるような行動や不要不急の移動は避けてください。「行動制限レベル表」の詳細は、ポータルサイトや大学ホームページで確認してください。

エアロゾル感染の防御対策の基本が、換気、マスクの装着、手洗い、対人接触の回避(疑わしい人との会食・カラオケの回避、および社会的距離の確保)であることは変わりません。身近な人が検査で陽性と判明した場合、濃厚接触者に指定された場合、自らの感染が不安な場合、発熱や全身倦怠感、のどの痛み、咳などの症状がある場合は、学内に入構せず、各学科の担当者・学生課に連絡して指示を受けてください。症状がある場合には医療機関に受診してください。無症状で感染の疑いがある場合には、学内のPCR検査センターで検査を受けることができます。PCR検査で陽性が判明した場合、あるいは濃厚接触者に指定された場合は、速やかに「新型コロナウイルス感染・濃厚接触報告書入力フォーム」に入力して届け出てください。PCR検査陽性者のプライバシーはしっかりと守り、また復帰の際は個人情報保護を徹底して、円滑に復帰できるようにサポートします。

年末年始には人の移動が増え、1月には成人式が控えています。今年1月の成人式後に新規感染者が急増し、学内で初めて感染クラスターが発生して、大学の機能に深刻な影響が及んだことは記憶していることでしょう。同じ事態を繰り返してはなりません。

本学では、最も基本的な感染防御対策として、(1) 大人数(5人以上)との会食・カラオケは控える(不特定多数が参加する宴会等を想定)、(2) 学内では原則としてマスクを常に装着し、口・鼻に触れない、(3) 健康観察と行動記録を継続する、の3項目を掲げてきましたが、今回もこの基本方針を維持します。厚労省のアドバイザリーボードは、行動制限の内容をより具体的に、会食は第三者認証店を選び、できる限り少数で、長時間の滞在を避け、会話ではマスクを装着し、カラオケ等の3密や混雑、大声を出すような感染リスクの高い場面を避けるよう求めています。

9月の後期授業開始時には、1週間前から健康観察期間を設けましたが、冬季休暇では設けません。各自で感染防御対策を徹底してください。年明けの授業再開時には、検温を含む

健康観察記録、行動記録を各学科で確認しますので、休暇中も記録を継続してください。年始からの対面授業では引き続き以下の注意事項を守ってください。資格試験対策のために入構する場合も同様です。

- 1) 授業前・後における不要不急の学内滞在は避ける
- 2) 学食等での黙食を徹底する
- 3) 自家用車（複数名乗車時）や学バス乗車中は、黙乗を徹底する
- 4) 体調不良の場合、あるいは体調に関わらず感染が疑われる場合は入構しない

室内でマスクを装着していれば、感染者に接触しても直ちに感染するわけではありません。繰り返しますが、最もリスクが高いのは感染者との会食です。どのような状況で感染が起き易いのか、あるいは起きにくいのかをよく理解し、感染が起きやすい行動を控えるように、各自が的確に判断するように求められているのです。

PCR 検査については、県の無料検査所が年末年始の期間のみですが再開されます。新潟リハビリテーション病院でも検査を受けられますし、無症状であれば、本学の PCR 検査センターでも検査可能です。

強化指定クラブの活動は、活動計画書の下、部長・監督・コーチの指示に従って慎重に行ってください。学友会などの課外活動（クラブ・サークル、ボランティア活動）は活動計画書を提出し、安全が確認できれば許可されますので、顧問（指導者）の監督下で活動してください。顧問（指導者）が不在の場合は、学内施設を利用することはできません。

海外渡航については、渡航先の状況に応じて個別に判断しますので、各学科の担当者や学生課に相談してください。

学生相談は、状況に応じて対面でもオンラインでも利用できます。一人で悩むことなく、遠慮なく学生課や各学科の担当者に相談してください。

3) ワクチンの追加接種について

本学では4回目のワクチン接種を推奨してきましたが、11月、12月に新潟リハビリテーション病院で実施したオミクロン対応株ワクチンの個別接種で接種を受けた学生は410名でした。12月19日～23日は学内で職域接種を実施していますが、学生の申し込みは513名です。3回目のワクチン接種は83.4%の学生が受けましたので、4回目は低調です。

万一感染しても、ほぼ無症状で済むこと、若年層ではワクチンの副反応が感染の症候以上に強いことが理由として挙げられますが、ワクチンには自らの感染を予防する効果、重症化を予防する効果とともに、他者への感染を減らす効果があります。本学は医療福祉系の大学で、臨地実習に向かう学生が多数います。主なクライアントである高齢者への感染リスクを下げるために、出来る限り4回目のワクチン接種を受けるよう引き続き推奨します。ワクチン接種により体調不良となった場合には、授業や定期試験において不利益を被らないように配慮しますので、申し出てください。

4) 今後の見通しについて

BA.5 の後にも、次々に新たな変異株が発生していますが、幸い、感染力は強まっても、重症化することはないとされています。今後も同様の状況が続くと想定されますが、デルタ株のように重症化しやすい変異株が発生する可能性もまだ否定はできず、新型コロナが季節性インフルエンザ並みの感染症になったとは言い難いと判断しています。

「行動制限は不要」から、マスクの装着も不要、感染症法上の位置付けも季節性インフルエンザと同様の5類に、ワクチン接種も治療薬も自己負担に、という方向に進んで行くと思いますが、重要なのは、各自が感染し易い行動を避け、感染防御対策を徹底することです。感染症は感染者と接触しなければ、拡大しないのですから、学生・院生の皆さんは引き続き、自ら感染しないように、他の人に感染させないように、慎重に行動してください。自らの感染の可能性を減らし、重症化を防ぎ、他者への感染リスクを下げるができるワクチン接種を受けてください。新潟医療福祉大学の学生であるという自覚をもって行動して下さるよう改めてお願いします。

今後も感染の状況を踏まえながら、皆さんに安全な学習環境を用意して行きますので、大学からの情報に注意してください。

2022年12月22日

新潟医療福祉大学学長 西澤 正豊